

●佛教いろは字典

四六形。な付優撰。大英本。全四冊。字數凡一百萬。挿圖數拾個。千五百餘頁。正價 金貳圓五拾錢

右は精練なる佛教中の故事典。又は梵語經文を初め高僧の傳記或は巨刹の緣起等凡て搜羅項々普通の「いろは字典」の如くに編纂せしものにて、譬へば「作樂」「の三」「六物」「は(る)の四」「圖入」「弘法大師」「の七」「天王寺」「は(て)の五」「大寶」は(あ)の五」につきて見れば其出所、經名又は故事來歴等一目瞭然、實に佛教界中前代未聞不思議の珍書、世間稀、佛典を編く人には座右の書と欲く可からざる至便の書也。

●佛敎字典 (第三版)

定價 金壹圓貳拾錢 郵稅 拾四錢

本書は經典中の專門語、術語、梵語等は勿論、本邦の歴史等に散見する佛語に至るまでも漏す所なく、初學の解し難きもの凡一萬言を輯めて、丁寧に解釋を附す、且一々其典源を明示したり、引方は文選字引の如く、肩旁冠字を以て引く法なり、例せば「浮圖」は「水窟七窟」に、「菩提」は「神冠八重」に、「般若」は「舟扁四重」の下にあり、此書一本を著へば數千卷の佛書を讀するに勝るの價値あり。

●提唱十牛圖

●提唱十牛圖 (十個) 正價金拾五錢

夫れこの提唱は阿含教牛の十二法、大論の十二事等に擬して、自然相向、初學者流の爲めに一編略を指示せられたる、牧牛圖の解釋なり、其順序秩然として刻あるもの、之を大導師の平生の力を演き、漸次に或は向上、或は向す、横に脱き、聖に論し、深切可憐、區々精佛頂上の真理を顯示せられたるものにして、文章は極めて平易に、語句は極めて通俗なり、初味を嘗めたるもの、機根の上下を問はず、各其の分に應じて、所得多かるべし、古來假名法語、和訳抄録等ありと雖此書に及ばざると違ひ、實にこの書は前代未聞未見の珍書なり、其真味を知らんと欲せば、速に此書を看讀せられよ、忽然として、大悟徹底の妙境に到達するを得ん。

●三部假名抄

和紙刷 正價金拾錢

右は智德兼備、才學並に高かりし、向阿上人の述作にして、解釋の微塵を發明し、未曾有の妙理を示す、後を立つると公明にして文、詳解る雅趣なり、實に本書は四方の遠近行者の應鑒なるのみならず、亦以て國學者の一讀を要すべし。

發賣所

東京淺草區吉野町十三番地

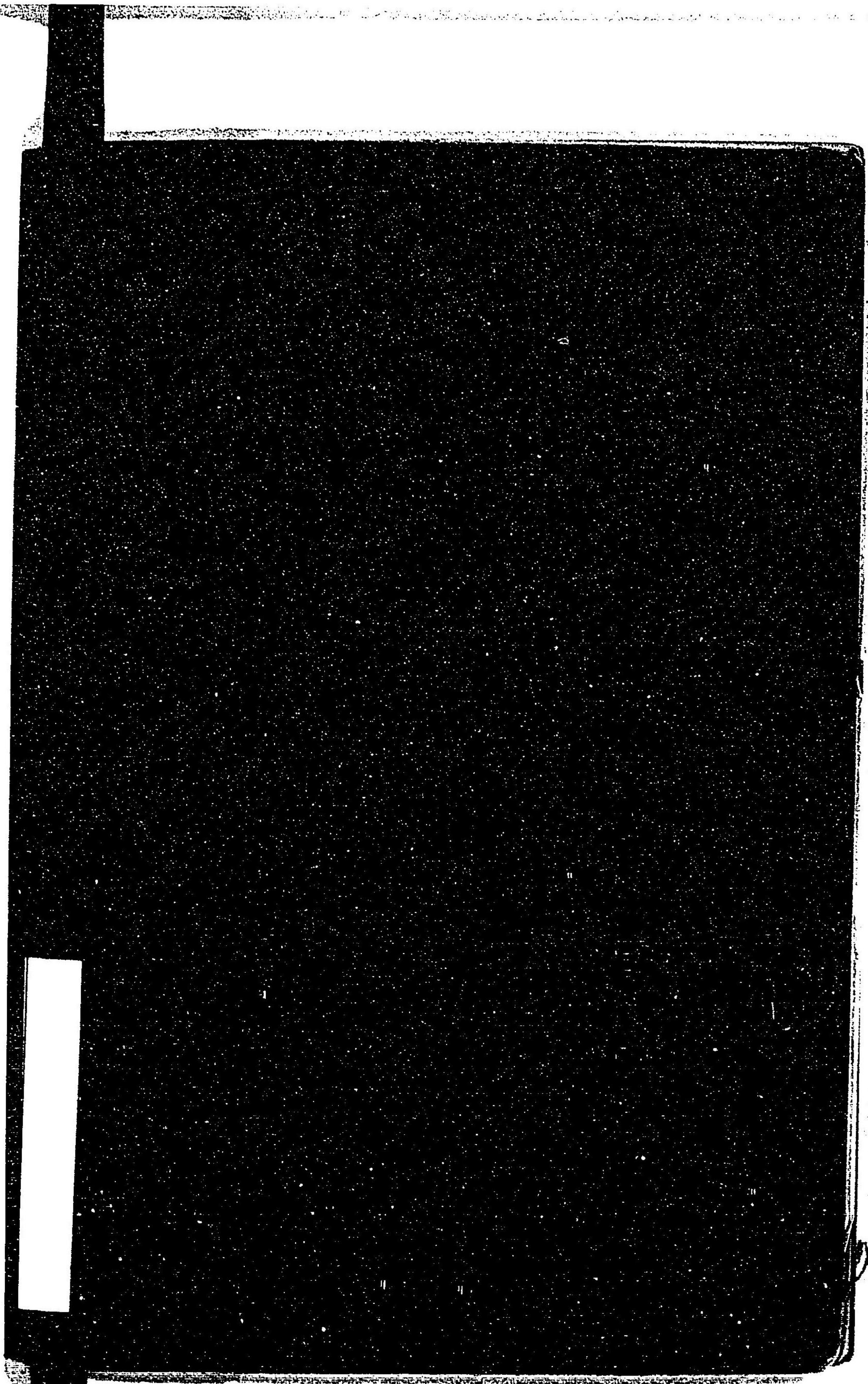
經世書院













183  
A526b

M

015513-001-6

183-A526b

仏教聖典史論

姉崎 正治/著

M32

ABC-1188

